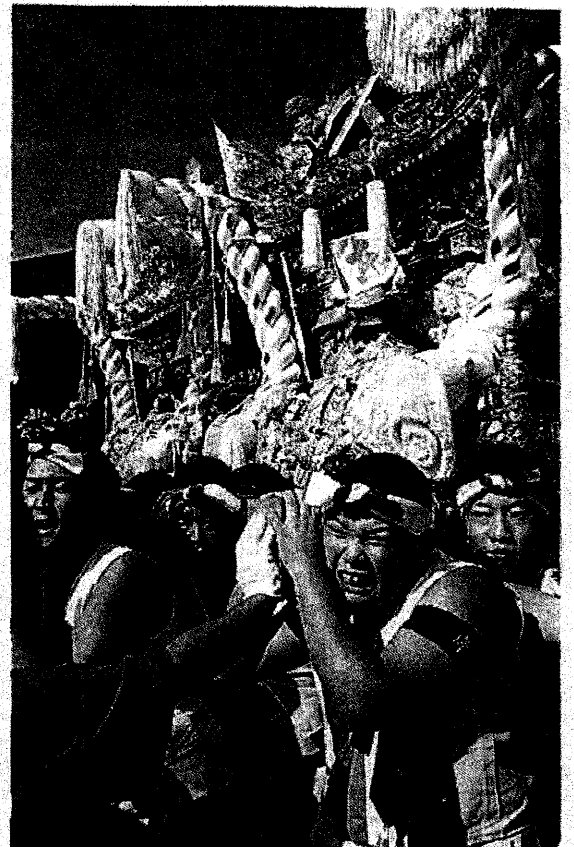


# 播磨の祭り 沸き立つ秋



豪快な台場差しを披露する担ぎ手ら＝姫路市飾磨区須加



播磨地方は秋祭りの季節を迎えた。8日、姫路市飾磨区須加の浜の宮天満宮と同区恵美酒の恵美酒宮天満神社で例大祭の宵宮があり、締め込み姿の練り子たちの掛け声「ヨイヤサー」が宵空に響いた。

## 浜の宮

浜の宮天満宮では正午ごろ

に宮入りが始まった。8地区の屋台が境内にそろそろと須加、宮、天神、西細江の練り子たちが次々に、重さ約2トンの屋台を掲げる「台場差し」を披露。それぞれ24人ずつ参加し、腕を伸ばして頭上に掲げる時間を競った。

練り棒などを新調した天神地区の水田裕一郎祭典委員長(44)は「漆塗りの屋根が目に当たって一段と輝いている。最高の祭り日和です」。須加地区の建設業松原武俊さん(33)は「一生懸命、死にもの

ぐるいで担ぎ上げた。息の合った台場差しができて気持ちいい」と満足顔だった。

## 恵美酒宮

恵美酒宮天満神社は午後1時ごろから、東堀、都倉町、御幸、栄町、玉地、清水、北細江、小瀬の8地区の屋台が赤や黄など色とりどりのシテ棒に先導され、境内へ。3台の屋台が並んでおつかり合ふ練り合わせや屋台を高く担ぎ上げる「台場練り」を見せ、約2千人という見物客の歓声を誘った。

## 「ヨイヤサー」響く

玉地自治会の中島司和副会長(67)は「玉地は練りに自信

勇壮な練り合わせを見せる担ぎ手たち＝姫路市飾磨区恵美酒

を持っている。今年もほかの地区に負けない姿を見せることが出来た」とうれしそうに話した。

播磨の秋祭りは14、16両日、松原八幡神社(同市白浜町)の「灘のけんか祭り」と、大塩天満宮(同市大塩町汐映1丁目)の「秋祭り 毛獅子の舞」があり、ピークを迎える。